SCJ 55

インドネシア

手洗いと子どもたち

6ヶ月間の活動報告

スタッフからの便り



あれれ、いつのまにか
口ずさんじゃう♪

食事の前、トイレの後、外で遊んだら
「せっけんで手を洗いなさい」と言われても
めんどうくさくて洗わないのは、全世界共通。
先生たちも困った困った。

さあ、どうやって洗ってもらうか。

ここインドネシアでは、まず先生に研修。
手を洗わない危険性をあらためて勉強。
そしてそして、手洗いの歌！
はずかしくたって、子どものため。
しっかり覚えて、学校にもどって
子どもたちにレクチャー。

見てください。
この子どもたちの笑顔。
楽しい！ おもしろい！ うはははは！
人気の歌にのせているから
すぐ覚えちゃう。

子どもに衛生教育。しかも習慣化させなくては。
むずかしく考えないで
子どもの立場になって考える。
ほら、答えは笑顔で返ってくる。

2010年2月 インドネシア／地震で被災した子どもたちに衛生教育の支援



友だちと歌を口ずさみながら手洗い。なんでこんなに楽しいんだろう、笑っちゃう

ひろめる、ひろがる、手洗い好きの子どもたち

——スマトラ島西部パダン沖地震に対する6ヶ月間の支援の様子をお伝えします



1. ハイチよりもチリよりも前の、昨年2009年9月30日、インドネシアでまた地震が発生。SCJからもスタッフを派遣し緊急支援を行うことを決めた。



2. 崩れかかった学校に集まる子どもたち。日本人と一緒で地震には慣れていても、大地震となると違う。被災直後は不安そうな顔でいっぱいだった。



3. SCが建てた仮設の学校。地盤のしっかりした場所を選んでテントを張った。



4. 恥ずかしがり屋の子どもたちと、校長先生。学用品を渡すと、とても喜んでくれた。



5. 配布した学用品キットの中身は、ノートやペン、クリップ、ハサミなど。



6. 黒板の代わりに、ホワイトボード70台も配布。震災前の教室の雰囲気にどれだけ近づけてあげることが出来たか……。



7. 元気いっぱい飛びついてきた子どもたち。子どもの回復力は大人の想像以上！



8. 被災直後から雨季が始まった。壊れた学校は雨ざらし。生活環境がまだまだ元に戻らない中、感染症の増加が懸念される。



9. 感染症の対策としてSCJは学校に手洗い場を設置し、衛生教育を行うことを決定。現地スタッフと手分けして学校を訪問。校長先生たちと一緒に支援の計画を立てていく。



10. 関心を表明した学校に簡易の手洗い場を設置。今後、校舎が再建されることを見通して、資材は簡単に移動出来るものを使用。



11. 完成した手洗い場。水は学校近くの家庭の井戸や川からくみ上げたり、雨水を利用して臨機応変に。



12. さぁ次は、子どもたちに正しい手洗いの仕方を教える番。まずは生徒を指導する先生たち60校120人をSCJが指導。



13. 続いて子どもたちに指導。「手の平だけでなくて、指の間、爪のすきま、そしてひじまで洗って……」説明はしてみたけれど、調子がのらない様子。



14. 「じゃあ、手洗いソングを歌いながら覚えてね♪」子どもたちは手洗いの振り付けを覚えてノリノリに。



15. ほかの学校では、校庭に出て全校生徒で手洗いの振り付けを覚えていた。皆でやると圧巻！



16. 手洗い活動は、ラジオでも紹介された。



17. 子どもたちがはしゃいでいる。手洗いを喜んで実践してくれることが嬉しい。



18. 手をきちんと洗う。「たったそれだけ」のように見えるけれど、寄生虫やウィルスによる感染症をかなりの程度予防できる大切な行為。これからも続けてほしい。

SCはセーブ・ザ・チルドレンの略称です。
SCJはセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの略称です。

スタッフ便り――私たちの支援はすべての「はじまり」

インドネシア　緊急支援担当　古田ちあき



今年3月下旬、緊急支援の終了を前に、60校近くの校長先生が集まって今回の衛生教育の活動を振り返りました。ミーティングは思ったよりも活発。手洗い場をぜひ維持していきたいけれど水源を持続的に確保するにはどうしたらよいかとか、新たに手洗い場を設置するための資金を行政などにも呼びかけてみようとか、色々な意見が出ているのを聞いて、私は帰国を前に、気がかりだったことが少しなくなったような気がしました。

これまでもアジアやアフリカで緊急支援の現場に駐在した経験がありますが、私がいつも心がけていることがあって、それは、支援の現場で、私やSCJが主役であってはならないということ。あくまで、子どもの生活や教育などに責任があるのは、親や教員、地域とかその国の政府であって、私たち支援する側は、災害など何らかの理由でその責任を全うすることが難しい状況にある彼らを補う役目だという意識を持って支援に携わることです。

今回のインドネシアもそれは同じ。約6ヶ月という短い期間に、私たちがいなくなった後も、現地の人がSCJの支援を活かして子どもの「最善の利益」のために力を尽くす意識を形に出来るよう働きかけて支援を終えなければと考えていました。

ですから、ミーティングに来てくれた校長先生たちが、子どもの衛生環境の向上に意義を感じ、自分たちの力で子どもの健康や病気の予防に取り組んでいく方策が見え始めていることがわかって、「本当の意味で支援が現地に届きつつある」と一安心。と同時に、「このやる気と活動がずっと継続していってほしい」という気持ちになりました。

SCJが設置した手洗い場はあくまで「簡易」であって緊急に取り付けた仮のもの。今後、崩れた学校をインドネシア政府が本格的に建て直すタイミングで、正式な手洗い場の設置を教員たちが働きかけていくことになりました。今回、SCJの活動がきっかけで、60もの学校の教員たちが横につながり学校のネットワークが出来ました。たくさんの人数が集まって声を上げれば、要望はきっと通ると信じています。



◉インドネシア共和国

世界で4番目に人口の多い国。その約3分の1にあたる約74百万人が18歳未満の子どもです。国全体で4千万人が安全な飲み水にアクセス出来ません。小学校への入学率は男女の差がほとんどなく90％以上ありますが、途中で学業をあきらめる子どもも多く、中学校への入学率は60％にとどまっています。（出典：The State of World's Children 2010ほか）

◉インドネシアでのセーブ・ザ・チルドレンの活動

SC全体で初めてオフィスを構えたのは1976年。途中退学がなくなるよう教育の質を改善するため、教員研修を行って人材を育成。また地震が頻発するインドネシアで、政府と協力し、防災・減災の教育も授業に取り入れています。SCJとしては、2004年末のスマトラ島沖地震の支援以降、自然災害が発生した際にスタッフを派遣。復興支援にたずさわってきた実績があります。

みんなの声

たくましく生きる子どもたちに幸せでいてほしい

会社員　小野うみか

自然災害や紛争などのニュースを聞くたびに、悲しい思いをしている子どもたちがどれほどいるのだろうと胸が痛くなります。前号のニュースレターでは大地震が起こったハイチが取り上げられていました。青空教室で笑顔を見せたジョゼフ君や心優しいミシュカちゃんのエピソードなど、たくましく前進しようとする子どもたちの様子に感動しました。

支援活動は頭で考えるよりもずっと難しく、大変なことだと思います。私たちはニュースレターを通して現地の様子を知ることが出来るので、皆様の活動を本当に心強く感じています。これからも世界中の子どもたちが笑顔でいられるように、活動を続けていただけますことを心よりお願い申し上げます。

＊　＊　＊

ハイチの子どもたちの写真に勇気づけられたというメッセージは他にも多数の方からいただきました。私たちへの励ましのメッセージもありがとうございます。

あたたかいご支援、ありがとうございます。

すでにご紹介したＳＣＪの緊急支援も含め、セーブ・ザ・チルドレン全体では、
西スマトラ州パダン・パリアマン県とアガム県を中心に、子ども77,736人を含む158,076人に対して緊急支援を行いました。
日本の皆さまからのご寄付約2,700万円は以下の支援にも活用させていただきました。

6ヶ月間の主な支援実績（2009年10月4日～2010年3月31日）

●シェルター	29,894世帯にシェルターキット（防水シートとマット）、33,996世帯にシェルター修繕用の資材キット（プラスチックシート、くぎ、ロープなど）を配布。750世帯の家屋の再建支援。
●生活必需品	29,999世帯に生活用品キット（蚊帳、調理用具、食器、布、懐中電灯など）および衛生用品キット（石鹸、タオル、洗面用品、洗剤など）を配布。
●保健	母子手帳を1,500冊、震災で母子手帳を失った妊婦や5歳以下の子どもを持つ母親に配布。地元の医療従事者（ヘルスワーカー）に応急処置などのトレーニングを実施。
●衛生	60の小学校に手洗い場を設置。9,947人の生徒に衛生教育を実施。衛生用品（石鹸、タオル、歯ブラシ、爪切りなど）も配布。
●子どもの保護	26の安全な遊び場「チャイルド・フレンドリー・スペース」を設置。
●教育	84の仮設の学習テントを設営。被災した111の学校に学習用品や遊具を配布。

2010年3月でセーブ・ザ・チルドレンの緊急支援活動は終了いたしました。今後はセーブ・ザ・チルドレン・インドネシアが中心となって、災害に備えた緊急物資の備蓄や防災教育の分野で支援を継続していきます。

※ＳＣＪの緊急支援につきましては、ジャパン・プラットフォームの助成を受けています。

「みんなの声」募集

原稿を400字程度にまとめて、郵便か電子メールでお送りください。氏名とご職業の明記をお願いします。なお原稿は返却いたしません。掲載の場合は一部編集させていただくことがあります。実名掲載が不可の際、一筆お書き添えください。送り先は裏表紙、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン ニュースレター編集係。メールアドレスはvoice@savechildren.or.jpです。いただきました個人情報は責任を持って厳重に管理させていただきます。

Save the Children JAPAN

✻最近の出来事&お伝えしたいこと

「EVERY ONE ～5歳の誕生日を、子どもたちに！～」

現在、年間約900万人の5歳未満の子どもたちが、予防や治療が可能な病気で亡くなっています。セーブ・ザ・チルドレンは、こうした現状を世界に訴え、子どもたちと母親が必要な医療サービスを受けられるように、グローバルキャンペーン「EVERY ONE（エブリワン）」を展開中です。詳しい内容につきましては、特設ホームページをご覧ください。
→http://www.savechildren.or.jp/everyone

Speaking Out Against Poverty（SOAP） ～夢や希望をうばわれないために～

日本の子どもの貧困に対する取組み"SOAP"を開始しました。日本でも7人に1人の子どもが貧困下にあります※。貧困は健康・教育などの格差、虐待など子どもに多くの影響を及ぼします。実態調査、啓発キャンペーン、政策提言などを実施し、当事者である子どもたちとともに、子どもの貧困解決に向けて活動していきます。
→http://www.savechildren.or.jp/ers/soap



イオン株式会社からご寄付をいただきました

イオン株式会社より、3月に全国のイオングループの店舗にて実施されたセール「今こそ値下げの5日間」の売上げの一部を上記の日本の子どもの貧困事業にご寄付いただきました。セール期間中、精算時に受け取られたレシートを専用ボックスに投函すると、その総額の0.1％をご寄付いただくというキャンペーンで、総額1,500,065円となりました。



第4回トート・アズ・キャンバス・チャリティーイベントが開催されました

4月5日から株式会社スーパープランニングの主催により、各界著名人87組が様々なアートワークを施したROOTOTEのトートバッグ「トート・アズ・キャンバス」の展示およびチャリティーオークションを東京・表参道ヒルズにて開催。総額2,025,113円が紛争下の教育支援キャンペーン「Rewrite the Future ～いっしょに描こう！子どもの未来～」に寄付されました。



カシウエア×セーブ・ザ・チルドレン

子どもへの温かい目線から生まれたカシウエアから「ミニ カシュベア for SCJ」が直営店および主要百貨店で販売中です。カシウエア素材をまとったミニベアは全2色。本商品の売上の一部は、上記SCのグローバルキャンペーン「EVERY ONE」に寄付されます。
→www.kashwerejapan.com



ファミリーマート「Famiポート募金」をご存じですか？

昨年10月より、全国のファミリーマートに設置されているマルチメディア端末「Famiポート」にて、募金受付サービス「Famiポート募金」が開始されました。SCJは対象団体の一つとしてご支援をいただいています。ぜひご利用ください。
→www.family.co.jp/famiport/donation

※相対的貧困率14.2％（2009年厚生労働省発表）

＜編集後記＞

世の中いろいろなコミュニケーションツールがあります。ツイッター、メールマガジン、SCJもフル活用はじめました。ちなみにツイッターは、「scjapan」と「akachan5」でご検索ください。ぜひ盛り上げてください。でも私にとって一番好きなコミュニケーションの方法はお手紙。「みんなの声」にいただいたメッセージはまだ片手で数えるほど。でも、いただくと1日中嬉しい。「SCJ」を読んでくださっていることがわかって有り難い。どれも温かいぬくもりを感じます。他と比べて時間のかかるコミュニケーションですが、気長にお待ちしています。これからもよろしくお願いします。（岡田茜）

【この冊子について】皆さまのご支援が子どもたちのためにどのように活かされ、何をもたらしたかをお伝えしたい。そして、子どもたちだけでなく、スタッフやSCJに関わるすべての人々のことを皆さまの近くに感じて欲しい――。この冊子は、私たちのそんな願いを形にしたものです。

発行：社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン　〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F
ご支援に関するお問い合わせ：03-6859-0068（平日 9：30-18：00）
印刷協力：日興製版印刷株式会社